

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%~99%)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

1. 全館共通項目

(1) 数値目標による評価

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	入館者	一日あたりの平均入館者数	225	人	B	218人×103%	
				212	人		開館日数:313日 総観覧者数:66,279人	
2	利用状況	常設展観覧者	一日あたりの平均観覧者数	225	人	B	218人×103%	
				212	人		開館日数:313日 総観覧者数:66,279人	
3	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	567	件	B	579件×98%	
				520	件			
4	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数	845,456	件	C	630,937件×134%	
				568,934	件		更新174回	
5	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	333	件	A	212件×157%	
				380	件		掲載件数186件	
6	効率的運営	経営努力	観覧料および事業等収入額	6,337,000	円	A	当該年度予算計上額	
				6,402,263	円		観覧料:5,671,820円 その他:730,443円	

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

(2) チェックリストによる評価

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	資料の収集・保管	資料の収集	収集方針に基づいた継続的な収集事業の実施	14	件	A	別紙チェックリストによる	
				14	件			
2	資料の収集・保管	資料の保存・管理	適切な保存・管理の実施	17	件	A	別紙チェックリストによる	
				17	件			
3	展示・教育普及	資料の活用	展示・公開・貸出等での資料活用状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
4	展示・教育普及	常設展示	来館者に配慮した展示運営	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
5	展示・教育普及	学習支援事業	参加者に配慮した事業運営	9	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
6	連携・協働	県民との連携・協働	連携・協働の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる	
				6	件			
7	調査研究	調査研究活動	活動状況および成果の公開状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
8	施設・アメニティー	快適空間の提供	施設・設備の改善状況	13	件	A	別紙チェックリストによる	
				13	件			
9	施設の活用	施設の利活用	施設の利活用状況	7	件	A	別紙チェックリストによる	
				7	件			

2. 館別独自項目  
(1) 数値目標による評価

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%~99%)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

	視点	項目	指標	目標値 達成値		評価	目標値の設定根拠 特記事項	
1	資料活用	展示活用	館内利用数	400	点	A	目標数	特別展1回、企画展3回
				4022	点			
2	資料活用	展示活用	館外利用数	200	点	A	目標数	熊谷図書館 214、館外貸出127
				341	点			
3	展示	常設展	満足度	80	%	A	アンケート回答数 737/804	
				92	%			
4	展示	特別展・企画展	満足度	80	%	A	アンケート回答数 708/810	
				87	%			
5	学校利用	利用促進	学校訪問数	192	校	B	予定数	
				165	校			
6	学習支援	普及事業	満足度	85	%	A	アンケート回答数 285/305	
				93	%			
7	学習支援	現地指導	館および周辺環境の観察指導	33	件	A	昨年度実績	
				54	件			
8	学習支援	社会教育等への支援	外部施設への派遣件数	36	件	B	昨年度実績	
				34	件			
9	情報発信	インターネットの活用	ツイッター数	365	回	A	1日1回	
				412	回			
10	県民との連携・協働	ボランティア・外部研修者	活動日数	220	日	A	昨年度実績	
				445	日			
11	調査研究	成果発表	研究成果の発表	14	件	A	学芸系職員一人1件 研究報告6、研究発表8、その他1	
				15	件			
12	シンクタンク機能	高等教育への支援	大学実習などの対応数	5	件	A	昨年度実績	
				6	件			
13	シンクタンク機能	指導者支援	指導者向け支援・育成プログラムの実施	10	回	A	昨年度実績	
				11	回			

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

(2) チェックリストによる評価

	視点	項目	指標	実施目標 達成度		評価	実施目標の設定根拠 特記事項	
1	魅力ある展示	企画展示事業の実施	埼玉の自然情報を発信する企画展の実施状況	3	件	A	別紙チェックリストによる	
				3	件			
2	多様な学習支援プログラムの提供	学習支援システムの確立	学習支援体制の充実度	4	件	A	別紙チェックリストによる	
				4	件			
3	連携・交流	共催・連携展の実施	共催・連携展の実施状況	9	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
4	シンクタンク機能	シンクタンク機能の発揮	シンクタンクとしての社会貢献度	8	件	A	別紙チェックリストによる	
				8	件			

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>1. 常設展示(地質コーナー)の一部改修 中生代の恐竜のレプリカの設置、壁の展示ケースの改修などの実施</p> <p>2. 他機関との連携による特別展の開催 国立科学博物館(恐竜標本の借用)や各地の自然系博物館(各種画像やデータの提供を受ける)との連携により、特別展「恐竜時代」を開催</p> <p>3. 国際化への対応 多言語によるパンフレットの作成</p>
事業の成果	<p>1. 常設展示(地質コーナー)の一部改修 第四紀化石コーナーを新設し、ナウマンゾウや大型クマの化石、ニホンオオカミのものと考えられる歯を展示。埼玉の恐竜時代を新設し、ガリミムスの全身骨格レプリカを展示。秩父鉱山コーナーを改修し、展示物を充実させた。</p> <p>2. 他機関との連携による特別展の開催 国立科学博物館や群馬県立自然史博物館などから恐竜の全身骨格レプリカや実物化石、画像を借用し、特別展「恐竜時代」を6月11日から10月26日まで開催。特別展開催中の観覧者は、前年より4,671名増加、前年比115%。</p> <p>3. 国際化への対応 英語、中国語簡体、中国語繁体、韓国語の博物館パンフレット(入館のしおり)を製作した。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	20 (11)	総予算額 (人件費を除く)	16,265,000円	職員一人あたりの県民人口	36.1万人
収蔵資料総点数	155,903	事業経費 (上記の内数)	9,286,000円	利用者一人あたりのコスト (平成25年度)	386円
平成25年度 収集資料点数	2,776	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	6,337,000円 (5,671,820円)	県民人口に対する利用者割合 (平成25年度)	0.85%

(注)平成26年4月1日現在の埼玉県推計人口 7,225,484人

平成26年度 博物館施設 総合評価

施設名 自然の博物館

		A評価	B評価	C評価
全館共通	数値目標による評価	2	3	1
	チェックリストによる評価	9	0	0
各館独自	数値目標による評価	11	2	0
	チェックリストによる評価	4	0	0

自己評価総括

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全館共通項目の数値目標による評価では、A評価が2項目、B評価が3項目、C評価が1項目であった。</li> <li>・A評価項目のうち、「広聴・広報」は多様なマスメディア等への情報提供の結果である。また、「観覧料および事業等収入額」は6月から10月に開催した特別展「恐竜時代」の観覧者増によるものと考えられる。</li> <li>・B評価は「入館者数、常設観覧者数」と「年間レファレンス件数」であるが、それぞれ目標値の約94%、92%であった。</li> <li>・C評価は「年間HPのアクセス件数」で、目標値の67%であった。</li> <li>・チェックリストによる評価では、全項目A評価であった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・項目の入館者、常設展観覧者、情報提供サービス、経営努力は、入館者数と連動するものであり、入館者の維持が課題である。</li> <li>・県内唯一の自然系総合博物館として、魅力ある展示事業を始め、教育普及事業や資料の保管・管理・活用、地域や他館との連携を図っているが、館の対応能力と要望等との面で調整が課題である。</li> </ul>
対応の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある特別展や企画展を実施するとともに、多方面への博物館活動の広報を行い、博物館の認知度を高め、来館意識が向上するように努める。</li> <li>・事業等の優先度を見極めながら、より満足度の高い館運営を図る。</li> </ul>

## 評価結果に対するコメント

### 1. 全体に係る評価

・資料の収集・保管や企画展を含む展示、教育普及活動、研究活動等、着実な活動が行われ成果を上げていると思います。狭いながら、展示も十分工夫され、観覧者に楽しみながら理解してもらえるよう努力されていると思いますが、如何せん絶対的な規模の不足が足かせになっており、効果を半減させていると思います。これが入館者が伸びない一因となっています。職員の努力にもかかわらず、県民にとって立地の不便さもあり、せっかく訪ねても、物足りなさを感じたり、再訪の意欲を起こさせにくい要因になっているのではないのでしょうか。700万県民をもつ県の中枢博物館としては、いかにも物足りなさを感じるのが残念です。

各館協議会委員の見  
・活動全体については、カルカロドン メガロドンの展示(実物の大きさに感動)、地質展示の改修などが以前より面白く、分かりやすくなったと思います。  
利用状況については、地理的位置から考えると、よく利用されていると思います(3月末、平日の昼頃で10名:老人から子どもの入館者があり、展示物を皆楽しそうに見学していました。)。インターネットの活用については、広報等による魅力的な発信を多く行うようにすれば良くなると思います。  
学校訪問数などについては、小中教科書で扱われている現物を利用すると、教育効果が得られるので、積極的に呼びかければ、教師達は機会を利用してくれると思います(評価会議で述べましたように、写真ではなく、実物を直接見せることが大切なのです)。  
なお、生物展示室では、見学者が暗い室内で必死に番号の生物を探し、居場所が分かると喜びの声を上げていましたが、暗くて動物達が良く見えないのが難点でした。  
最後に、宝登山のロウバイや桜などの観光客を説明展示やスタンプラリーなどの形で、博物館まで呼びよせることが出来ればと思いました。

・評価結果は適切だと思われます。  
ただし、自己評価総括の”対応の方向”の項、文の表現形式を統一した方が良いので、例えば次のような形にしたらどうかと思います。「魅力ある特別展や企画展を実施するとともに、多方面への博物館活動の広報を行い、博物館の認知度を高め、来館の意識を持ってもらう。」 → 「来館意識が向上するように努める。」

その他の参考意見  
1. 「自己評価総括」関連  
”館の対応能力と要望等との面で調整が課題である”と記されていますが、その一つになるかと思える解決策を挙げておきます。  
定年退職された旧学芸員の活用です。ただし、名義、報酬(ボランティアを含む)、人員などについては検討が必要でしょう。  
2. 必要意項目チェックリスト関連  
1) 資料の保存管理  
ここに挙げられている①～⑦にわたる項目のほか、次のことが考えられます。  
⑧ 収蔵資料を利用目的別に分類整理し、そのデータを資料の収集や活用に役だっているか  
2) シンクタンク機能の発揮  
ここに挙げられた①～⑧の項目以外に次のことが考えられます。重要なことです。  
⑨ 県内の自然誌・史に必要な過去(現在・将来を含む)の研究資料を収集・完備し、その保存に当たるとともに、館内外の研究者に提供することは、県の博物館施設として極めて重要なことであるが、そのための努力をしているか。

・全般的に良く努力されていると思われます。  
学習支援にしても、企画展にしても、さらにシンクタンク機能を発揮するためには職員の視野・力量が重要と思いますが、そのために県や館では職員のリベルアップを考えなくてははいけません。そのために、今後なにをしたらよいか議論されるとよいのではないかと。まずは、一年間誰が一番「おかげさま賞」「アイデア賞」「やる気のあった賞」「がんばった賞」などを出す。

## 2. 全館共通項目に係る評価

評  
価  
  
小  
委  
員  
の  
意  
見

・立地と施設の規模は館側の努力では如何ともしがたいものであるから、直接的な評価の対象とはすべきでないが、入館者増(少なくとも維持)のためには展示をいかにリニューアルしながら観覧者に提示するのか、中長期的な展望・計画があれば知りたいところである。恐竜は確かに魅力的なコンテンツだが、恐竜にばかり頼れないのではというのが外部からの率直な意見である。

・「多方面への博物館活動の広報を行い、博物館の認知度を高める」ことは必要だが、どのような観覧者層に重点的に働きかけていくのか、博物館の「売り」をどこに求めていくのか、広報戦略が欲しい。

・インターネットへのアクセス数を上げるのは、各館共通だが、いつもの展示品を動画で紹介できないか？撮影は学芸員。撮影ポイントは、学芸員ならではの視点とわかりやすい解説付きで。映画ナイトミュージアム風に館内を紹介する時に、子供の視点、大人の視点に区分するとか、子供達を企画のチームに入れて撮るとか話題も加味するとマスコミやアクセスも増加する。

・すばらしいモノがたくさん展示してあるわけだから、館に向かう道すがらがワクワクするような仕掛け、期待感など感じさせたい。

・入館者数は数値の評価としてはBであるが、特別展の来場者は大幅に増加しており、魅力ある企画であったこと、また積極的な学習支援、資料の活用などについては、ハード面でもソフト面でも制約のあるなかでの努力の成果として評価したい。

・常設展については、一部改修により展示の充実がはかられてはいるが、さらに展示の工夫や広報活動、また地域の関係団体との連携の活動等により、認知度が高まり来館者増に繋がることを期待したい。